

まちづくり懇談会内容【公開用】

日 時：令和 2 年 11 月 8 日（日）14：00～15：30

場 所：雨煙別公民館

出席者：6 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. これからのまちづくり（資料 1 参照）

- ・栗山赤十字病院の改築について

4. 懇談

5. その他（情報提供）

（1）光回線の全面開通について

（2）栗山高等学校と介護福祉学校の状況について

（3）新型コロナウイルス感染症対策について（資料 2 参照）

- ・町民の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－1 参照）

- ・事業者の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－2 参照）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（資料 2－3 参照）

（4）空き家の情報提供について

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築について】

町長：診療科などは、他の会場でもいろいろな意見が出ている。例えば、整形外科など午前中だけの診療なので、午後からも診療してほしいといった意見や、眼科や泌尿器科、皮膚科は週 1 回の出張医になる。週 1 回だと診療するタイミングを逃すと難しいので、週 2 回以上にしてほしいなどの意見が出ている。

町民：近隣 4 町は現状維持でやっていくそうだが、栗山赤十字病院は日本赤十字社の後ろ盾があって現状維持できているというのはわかる。他の町は町立だが現状維持できるのか。

町長：由仁などは、病院から診療所になり、その大きさでの現状維持ということになる。南幌は、一般病床や療養病床を 60 床に減らして、すべて地域包括ケア病床にする。地域包括ケア病床にすることで 60 日間の入院は診療報酬が高くなる。高度な医療は、北広島など近隣の病院と

連携を図る計画でいる。長沼は、建物の老朽化が進んでいて、これから改築について議論をしていく。民間の病院と連携をしながら協議していく。夕張は、整備が進んでいて診療所になっている。それぞれの市や町が病院を必要と考えている。近隣の市町と連携して総合病院として計画する話もあったが、なかなか難しい。

町民：栗山赤十字病院には先週からお世話になっている。

町長：他の会場では、総合受付から診察まで遠いといった意見も出ている。

町民：私は病気をしたことがないから、あまり病院に通うことがない。

町長：建設場所について、移転する場合は約6億円の解体費が借入金の対象にならないが、いろいろな可能性を考えている。現地建て替えの場合、病院の南側に広い敷地がある。建築面積7200㎡の建物を建築できるスペースがあるので、建築後に、既存の建物を解体する。病院は休まずに改築を進めることができる。

町長：候補地として、栗山駅周辺や、角田地区、富士の栗山町農産物検査場付近はどうかといった意見も出ている。

町民：病院の裏が空いているなら、高い土地を購入する心配もない。

町民：移転建替えした場合、今の薬局はどうなるのか。

町長：もし移転となったら、薬局も移転することになると思う。

町長：現地建て替えであったとしても、薬局を敷地内に移転できないかといった意見もあるが、国の制度上の問題で難しい面もある。担当から説明してもらう。

日赤改築室長：平成6年に、医薬分業の制度ができ、薬の処方（医者）と調剤（薬剤師）を分けた。院内から薬局がなくなった。院内の薬局は多くの薬剤をストックできない。人件費の問題。院内報酬など、経営が難しく、どうしても建物の外になった。また、道路をまたがないと薬局を建ててはならないということもあり、同じ敷地に薬局は建てられないことになっている。規制緩和してきているが、歩道に出ないと薬局が建てられない。その後、敷地内に薬局を建設してもよくなったが、経営は別にするようにということになった。

町長：3つの薬局のうち、1つを敷地に入れるというのも難しい。協議していきたい。

町長：11月9日から栗山赤十字病院でコロナの検査ができるようになる。担当から説明する。

日赤改築室長：栗山赤十字病院に発熱外来が11月9日からできる。病院の横にプレハブが建てられている。発熱や味覚症状などの症状があるなど、コロナが疑われるときは、栗山赤十字病院へ電話をしていただいて予約をし、受診していただくことになる。検査が必要であれば、抗原検査を受けることができる。

日赤改築室長：PCR検査は検体を札幌に送って検査する。抗原検査は栗山赤十字病院で検査ができる。発熱などの症状が出た場合、まずは電話で連絡いただきたい。検査の結果、陽性となった場合は、栗山赤十字病院から連絡があり、岩見沢市立病院への入院となる。もしベッドが満床であれば、札幌市内のホテルでの療養となることもある。個人的に検査を受ける場合は、65歳以上であれば、国や町から検査費用の補助が受けられる。電話での予約になる。

町民：65歳以上ならコロナの検査は無料ということか。

町長：1回だけということになるが、無料になる。

町民：インフルエンザなども発熱外来になるのか。

日赤改築室長：発熱がある場合は、発熱外来での診療になる。

町長：栗山はまだコロナ感染者は出ていない。いずれ栗山でも感染者は出てくると思う。もし、栗山から感染者が出たとしても、誹謗中傷がないようにサポートをしていきたい。

《質疑応答》

【その他（情報提供）】

町民：光回線のことだが、何年か前に光回線を引きませんかという電話があった。雨煙別は光回線のエリアではないのに、業者は知らずに光回線の勧誘をしてきたこともあった。

町長：光回線の整備は全町規模で行う。

町長：国が一斉に光回線の整備を行うことになり、約5億円で整備できるようになった。コロナの影響もあって、光回線の整備が進んだ。

町民：光回線の整備は何年後になるのか。

副町長：令和3年度に整備する計画になっている。

町長：栗山はできるだけ早く光回線を整備してもらうように、長谷川議員にもお願いをしている。

町長：町全域で170件の光回線契約加入が必要になるが、170件に満たなくても、整備を進める。

町長：町全域に光回線が整備されれば、今後は遠隔診療などもできるようになってくる。

町長：コロナ対策として、町で9億円を支援した。主に教育や飲食店などが多い。農業経営者へは次期作の高収益作物の支援は大変と聞いた。農協で近日中に説明会をするということをしている。

町民：種いもの収穫などが、支援の対象になるか外れるか、話が二転三転していてよくわからない。

町長：農業に対する支援はなかなか難しい。栗山の農業者支援枠は確保している。どういう支援をすれば効果的なのか、農協などと協議しながら対応をしていきたい。

町民：農家にどんな支援をしても、税金を払うから一緒だと思う。

町長：持続化給付金もなかなか難しいと思う。

町民：角田炭鉱跡地はどこか決まったのか。

町長：企業が撤退して、公売にかかり町が買い取った。今までは日出の水源地へ行くために私有地を通過していたが、町の土地になった。

町民：あのあたりは不法投棄も多かった。

町民：炭鉱事務所のような建物も町の所有になったのか。

町長：建物は倒壊していて、課税対象外になったので土地だけの所有になる。

町民：石炭はまだあるのか。

町長：もしかしたら、鉱脈はあるかもしれないが、なかなか難しい。

15：30 終了